

中計 2019 説明会における主要な質疑応答

質問	回答
<p>Q1 : 今回は全社編の数量目標のみの発表とし、セグメント別計画の発表時期を今秋予定とした理由を教えてください。</p>	<p>A1 : セグメント別の目標数値は各事業部門から提出されていますが、着実に目標を達成する中計とするため、懸念されるリスクの詳細分析を進めています。また、本中計の目標の一つに財務基盤の強化を掲げており、成長分野に選別投資を行うため、多額の設備投資を伴う事業伸長計画に対しては、事業ポートフォリオマネジメントの観点から更なる検討の深堀りに時間を要しています。</p>
<p>Q2 : 2021 年度の営業利益計画を 1,000 億円とする一方、増益項目を積上げると 1,300 億円になりますが、差分の 300 億円にはどのようなリスクを想定しているか教えてください。</p>	<p>A2 : 為替リスクや事業環境の変化、再建中である車両と船舶海洋事業等をリスクファクターとして認識しています。</p>
<p>Q3 : 2021 年度の経営目標は営業利益率 6%以上、金額では 1,000 億円以上としていますが、利益率と金額のどちらを優先目標としていますか。</p>	<p>A3 : 当社は資本コスト経営を推進し ROIC を KPI としていることから、利益率を優先目標にしたいと考えています。各セグメントに関しても、利益率をベンチマークするなど、収益性を高めるよう取り組みます。</p>
<p>Q4 : 航空関係への設備投資は依然として高い水準に留まっていますが、ピークアウトするタイミングはいつになりますか。</p>	<p>A4 : 2030 年度までの事業展開を見据えた設備投資については中計期間内にてピークアウトする見込みです。2019 年度に関してはまだ少し工場の整備・拡張は続きますが、2020～2021 年度にかけて落ち着いてくると考えています。</p>
<p>Q5 : 過去 3 年の間に車両や船舶海洋事業において大きな損失が発生しましたが、今後 3 年間で損失が生じる恐れのあるプロジェクトはありますか。</p>	<p>A5 : 現状、大きな損失の発生が見込まれるプロジェクトはありません。なお、車両や船舶海洋事業においては、本社部門も交えて毎月プロジェクトの進捗フォローをしています。その他の事業においても毎月プロジェクトリスク管理委員会を開催し、進捗状況や懸念事項について審議しています。もし、特定のプロジェクトで損失発生の予兆があれば、早期に状況を把握し、対策を検討・実施するとともに、進捗をフォローする体制を整えています。</p>
<p>Q6 : 為替の前提レートはいくらか教えてください。</p>	<p>A6 : US ドルは 110 円、ユーロは 125 円で計画しています。一定程度までの為替変動はリスクバッファーで吸収し、営業利益率 6%以上（営業利益 1,000 億円）を目指す計画です。</p>